

新潟大学医学教育ワークショップ

8月6～7日にイタリヤ軒で新潟大学医学教育ワークショップが開催され、歯学部から学務委員会関係の野田 忠、前田健康、吉江弘正、子田晃一の4人が参加しました。このワークショップは医学部が主催し今回が第3回となります。

本ワークショップのディレクター岩淵 眞医学部長は、開催にあたって次のようなことを述べておられます。それは、今医学教育に対する多くの要請があり、それに対応する教育努力はされているものの不十分のように思われること、それは単に医学を教育することのみに力を注ぐことに終始していたためと思われること。また、講義をいくら熱心にしてもそれは学生にとって受動的なものでしかなく、今求められる教育法は学生が能動的に学習し、医師としての基本的な技能や態度を修得するためのものであること。このワークショップで教官が教育学の概念や手法を学ぶことにより、新潟大学の医学教育の改善と進歩に貢献することを期待しているという内容です。

歯学部の教育においても、平成11年度に歯科大学学長・歯学部長会議から歯科医学教授要綱が出され、また平成10年度歯科医師国家試験から新しい体系の出題基準が採用されたこと、臨床実習・臨床研修の充実が求められていること、また多様化し高度化した内容が増えていることなど、従来の教育とは違ったものが求められており、教育目標の設定はもちろん、教育方法の改善が迫られています。今回のワークショップへの参加は、これら教育改革の手掛かりとなる有用なものでした。

ワークショップは堀 原一日本医学教育学会会長、田中 勸防衛医大教授、橋本信也埼玉短大副

学長、福井次矢京大教授をタスクフォースに、医学部の教授以下教官とがんセンター部長など50名が参加して行われました。ワークショップでは、タスクフォースによる簡単な説明と、それに基づくグループでの実習、発表と討議が繰り返され、初日は朝9時から夜9時半まで、2日目は朝8時から午後4時半まで、昼食の30～40分を除いてハードに行われました。

主となったテーマは、カリキュラムプランニングで、学習目標・学習方略・教育評価について、シミュレーションにより演習することにより学習しました。学習目標では一般目標（GIO）、行動目標（SBO）を学習者の立場で明確にすること、学習方略では学習者が行動目標（SBO）に到達するために必要な学習方法の種類と順次性を具体的に立案すること、教育評価では学習者の評価とともに教育者の評価も行われることなど、これまで歯学部の教育で実践はされていたものの明確には行われていなかったものを認識させられました。われわれ教官としても、学生が理解できるような教育をしているか、学生の不出来を嘆くだけの教育になっていないか、留年させて厳しく評価しているつもりかの判定をしていないか、自分達のやっている教育をもう一度見直す必要があるように思います。

歯学教育は大きな変革期に入っています。新潟大学歯学部が、世の中から求められる優秀な歯科医師を送り出すために、全力を挙げて懸命の努力してゆかなければならない時期にきています。

（学務委員会:野田 忠）